

社会実験の概要

期間:平成27年3月16日(月)～平成27年3月31日(火)

内容:複数の施設経由する経路をシームレスに案内できること、地下及び建物内において、多様な利用者に対して経路案内を含む多様なサービスを提供できることを目的として下記の検証を実施。

1. 実験地域内の鉄道事業者・施設管理者から既存・新規の地図・施設図面の提供を受け、一元管理化した上で経路案内精度を検証
2. ベビーカー利用者が求める経路案内ルート(バリアフリー・エレベータ使用)を設定したサービスを提供し、利便性向上を検証
3. 災害発生時を想定して、災害・防災情報サイトへの切り替えを行い、利用者の利便性向上を検証



【経路案内アプリ画面】

実験結果

1. 経路案内精度確認

期待された効果	計測結果	計測結果に対する評価
複数の施設を経由する経路をスムーズに案内できる	移動経路誤認率22%。ただし、到達度は100%(目的地にたどり着けなかったケースなし)	精緻に統合した地図図面を利用する経路案内が有効であることを確認

2. ベビーカー利用者・外国人への経路案内サービス提供

期待された効果	計測結果	計測結果に対する評価
地下あるいは建物内において、多様な利用者に対して経路案内サービスを提供できる	ベビーカー利用者モニター員の満足度：73% 英語による経路案内を利用した外国人モニター員の満足度：80%	多様な利用者に対する経路案内サービスについて満足度が高いことを確認

3. 災害発生時の提供情報切り替え

期待された効果	計測結果	計測結果に対する評価
地下あるいは建物内において、災害関連情報を円滑に提供できる	災害発生時の提供情報切り替えを利用したモニター員の満足度平均値：65%	災害発生時の提供情報切り替え機能の満足度はそれほど高くない

本格実施に向けた課題

- ・精緻な統合地図に係る、経路案内に必要な情報の絞り込み、複数の施設管理者より図面の提供を受けるための仕組みづくり、維持管理スキーム、著作権の取扱いが課題。
- ・多様な利用者への経路案内に係る、アプリのユーザーインターフェース及び動作の安定性の向上、適用機種の拡大が課題。
- ・多様な情報(災害関連情報等)の提供について、災害種別を想定した提供情報の絞り込み、位置情報と連携した情報提供の有効性検討、刻々と変化するであろう災害関連情報の鮮度・信頼性の確保方法、複数チャネルによる情報提供時の情報錯綜抑止が課題。